

IntelのWired for Management構想について(1)

apricotの新シリーズのWindows 95プリインストール版には、IntelのLANDeskClientManager(以下LDCM)がプリインストールされています。また、NetPCであるLS100にも同じ物がプリインストールされています。このLDCMは、IntelのWired for Management構想の「管理者の遠隔制御によるデスクトップ管理」に基づいて製品化されたものです。では、Wired for Management構想とはどのようなものでしょうか。Intelの受け売りで説明してみたいと思います。

Wired for Management構想とは

企業のネットワークにおいては、現在TCO(Total Cost of Ownership)の削減が、ネットワークをより「健全に」成長させるために重要な問題となってきています。そのためには、企業内のあらゆるネットワークシステムをシステム管理部門が統括的に管理できることが必要となります。これまでのように、端末の管理を使用者の自主性に委ねていると、管理できるものではありません。以前のような専用端末であれば問題ありませんが、パソコンが端末の場合、使用者は自由なことが可能になります。例えば、個人的なプログラムの導入、システム環境の変更、勝手なバージョンアップなど。システム管理部門としては、いろいろな方法を取って管理しようとはしますが、台数が限られている内は何とかできますが、台数が増えてくるにしたがって管理は不可能となります。Wired for Management構想とは、Intelが推進し、PC、その他のネットワーク製品/技術を開発している業界各社が協力してTCO削減に取り組み、異なるメーカーや異機種間(パソコンとワークステーションなど)で相互運用できる“Manageable(管理可能)”な管理ツールや“Managed(管理された)”なPC/サーバを開発していかうとするものです。

まず第一の条件としては、TCOを削減するためには管理対象となるPCが遠隔で管理/操作できることが大切になります。PCを管理するためには、それぞれの状況を細かくデータとして管理する必要が有ります。状況を表にしてまとめることはできますが、現在の情報をリアルタイムで把握しようとするとは遠隔で管理できなければなりません。また、必要に応じて環境を変更する場合、管理台数が少なければそれぞれのPCを回って変更することもできますが、台数が増えた場合、遠隔で、しかも使っていない時間帯に変更を行う必要が出てきます。そのためには、遠隔で起動を含めて操作できることが必要となります。

(情報誌トピックス)

○ **経 済 工 業 日 報** 12月1日号

特集 成長神話崩壊後を読む

1998年パソコン市場展望

→ 順調な高成長を続けてきたパソコン市場が、1997年にその成長に急ブレーキがかかった。1998年の市場動向はどうか、周辺機器を含めて分析。

○ **経 済 工 業 日 報** 12月1日号

特集 デジタルカメラの使い方

→ 低価格になったといえどもまだ一般のカメラよりだいぶ高いデジタルカメラ。ビジネスツールとしてのデジタルカメラについて、使う、取る、買うための12の知識と最新製品レポート。

特集 パソコン97年冬モデルを総点検

→ a p r i c o t M S 5 4 0 を含む冬モデルの特集。デスクトップから、周辺機器まで、冬モデルの特徴は

新製品レポートで a p r i c o t M S 5 4 0 を紹介

○ **経 済 工 業 日 報** 12月号

特集 S O H O 新時代の幕開け

→ 個人が自宅にネットワークを構築し、外部と接続することによって、在宅勤務が注目され始めている。自宅や屋外を職場とすることによって、これまでとは違う就業状態が認知されることによってこれまでは就業できなかった人々の就業が可能となり、社会変革が起こる。意識の改革から、実際のS O H O の状況までを紹介。

○ **A S C I I** 12月号

特集 98年パソコンの顔が変わる！！

→ 今は、インターネットでネットサーフィンをして必要な情報を探しているが、98年はプッシュ技術がパソコンの顔を変える。プッシュ技術は、本来は、情報を提供する側が、変更を行うたびに情報を必要としているパソコンに対して発信する事を言うが、現在のプッシュ対応のアプリケーションは、指定時刻に自動アクセスを行い情報が変化していたときに自動で取り込む。プッシュ技術は、必要な情報を選択して得ることができるため、新聞、テレビなどを超えたメディア革命となりうる。

○ **S U P E R A S C I I** 12月号

特集 486マシン復活大作戦

→ 第一線を退いた486マシンの有効な利用法は有るのか。LAN上の専用サーバ、アプリケーションによっての専用マシンなど、OfficeやS O H Oなどでいろいろな使い方が考えられる。

○ A S C I I D O S / V 1 2 月 号

特集 激動のDOS/Vマシン新紀元

→NECの乱入で激動となる98新春。7分野51機種と比較と、各分野ごとの状況。

特集 Deschutes vs AMD+3D vs Cayenne

→互換CPUの採用が一気に増えた状況の中、98年のCPU戦争はどうなっていくか。

○ D O S / V m a g a z i n e 1 2 月 号

特集 怒涛のPCパーツセンター

→CPUやマザーボードなどの基本パーツから、周辺機器までのいつもは2ページほどのPCパーツセンターの大特集

特集 Active Desktop スーパーコントロール

→IE4.0で実現されているActive Desktop。Win98を先取りしたシェル機能で、注目度も高いが、シェルの環境改善に集中したカスタマイズテクニックを特集

特集 新世代CPU大戦略

→400MHzを超えようとしているINTEL、グラフィック表示機能、ディスプレイコントローラをCPUに統合したMediaGXで市場に受け入れられたCyrix、ハイエンド路線で真っ向から挑むAMDなど各社の路線を特集